旅行業・運輸

ＪＴＢ　2019年の旅行市場見通し

景況良く祝日も増え国内人数1.5%増

訪日12.3%増の3550万人に

ＪＴＢは12月20日、2019年の旅行市場の見通しを発表した。景況感が良く、祝日も増加することから国内旅行人数は前年比1・5%増の2億9090万人と予測する。訪日外国人旅行者数は12・3%増の3550万人と推計している。

祝日はゴールデンウイークが即位関連行事の関係で4月27日から10連休となる。祝賀ムードとともに、レジャーやショッピングへの意欲を喚起すると見込む。8月は「山の日」と日曜日が重なるため3連休となるが、旧盆を含む夏休みに組み込まれる場合も多そうだ。

10月に消費税率が10%に上がるが、食料品などは8%に据え置く軽減税率や、プレミアム商品券などの負担軽減策により影響の緩和が期待される。14年の8%への増税の際には宿泊旅行は2カ月後から影響が出始めたことから、今回の増税は年内には大きく影響しないと見ている。

9月20日～11月2日にアジア初となる「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が開催。世界のトップレベルの選手の試合が日本で観戦できることで、スポーツ観戦に注目が集まりそう。

2月に三つのホールを備える劇場型文化集客施設「COOL JAPAN PARK OSAKA」が大阪城公園内に、3月にはムーミンの世界を体験できる施設「ムーミンバレーパーク」が埼玉県飯能市に開業する。

国内旅行の平均消費額は、消費税の引き上げの影響と、旅行支出意欲の増加などから、2・0%増の3万6600円と推計。国内旅行消費額は3・6%増の10兆6500億円となる見込み。

訪日旅行が12・3%拡大する理由としては、すでに成熟市場となっている中国、韓国、台湾、香港からの訪日外国人旅行者の伸び率はやや鈍化するものの、欧米や東南アジアからの旅行者の伸びが期待されるという。

海外旅行は人数で過去最高となる1・1%増の1910万人と予測。平均消費額は前年並みの24万1600円、旅行消費額は1・0%増の4兆6100億円と推計する。

国内DIは5ポイント上昇

JATA、12月期旅行動向調査

日本旅行業協会（JATA）は12月13日、会員各社と中連協会員各社に対し四半期ごとに実施している「旅行市場動向調査」の2018年12月期結果を発表した。国内旅行の現況（10～12月）は、景気動向指数DIがマイナス5となり、3カ月前（7～9月）のマイナス10から5ポイント上昇。自然災害の影響が残っているが、団体旅行が好調だった。

3カ月後（1～3月）は個人、団体共に低調で9ポイント減のマイナス14に。6カ月後（4～6月）は4ポイント上昇しマイナス10になる見込み。

国内旅行の現況を方面別に見ると、地震のあった「北海道」がマイナス29と3カ月前から37ポイント減、「甲信越」がマイナス26、「東北」がマイナス31と共に12ポイント減と大幅な減少も目立った。「近畿」がマイナス11と7ポイント増、「山陽・山陰」がマイナス34と5ポイント増加した。

3カ月後は「北海道」が改善するもののマイナス25と前年には大きく及ばない。「京阪神（京都・大阪・USJ）」が12ポイント減のマイナス7など多くの地域で減少し、プラス圏内の地域はなくなる見込み。回復はゴールデンウイークを控えた6カ月後に持ち越される。

訪日旅行の現況は3カ月前の1から1ポイント減少しゼロ。北海道の災害の影響が残り回復には至らなかった。

3カ月後も見通しは厳しく6ポイント減のマイナス6。6カ月後は13と大きく回復する見通し。

海外旅行の現況は増減なしのマイナス3。夏休みが終わって遠方の地域や多くの顧客層で低下したものの、シニアと商用・視察が好調だった。

3カ月後は8ポイント減のマイナス11、6カ月後は4ポイント増のマイナス7となる見込み。

調査は11月5～23日にJATA会員、中連協会員の647社にインターネットで実施。260社から回答を得た。

国内・訪日旅行の需要動向

	1年前 10-12月	9カ月前 1-3月	6カ月前 4-6月	3カ月前 7-9月	現況 10-12月	3カ月後 1-3月	6カ月後 4-6月
国内旅行全般	−4	−15	−3	−10	−5	−14	−10
北海道	−15	−14	3	8	−29	−25	−16
東北	−32	−33	−23	−19	−31	−40	−28
東京（TDR、横浜を含む）	−5	−7	8	6	3	−3	−1
関東	−15	−20	−13	−13	−15	−17	−14
甲信越	−27	−29	−23	−14	−26	−27	−22
伊豆・箱根（静岡を含む）	−20	−21	−18	−16	−17	−17	−14
愛知・岐阜・三重	−20	−15	−18	−15	−18	−21	−19
北陸	−21	−25	−19	−13	−19	−29	−25
京阪神（京都、大阪、USJ）	6	5	9	0	5	−7	−1
近畿	−16	−16	−17	−18	−11	−19	−16
山陽・山陰	−19	−27	−21	−39	−34	−33	−25
四国	−26	−33	−24	−36	−32	−34	−30
九州	−10	−6	0	−7	−4	−10	−13
沖縄・奄美	−1	3	−1	−7	−4	−2	−6
訪日旅行全般	14	5	4	1	0	−6	13

岡山を高校生がPR

JAL岡山支店　東京で誘客キャラバン

日本航空（JAL）岡山支店は12月11日、岡山県の高校生が地域の魅力を集めたツアー企画を旅行会社に売り込む「岡山観光誘客キャラバン」を東京で実施した。笠岡商業高校、倉敷商業高校、津山商業高校の3校の生徒がジャルパック（東京都品川区）などを訪問。岡山県内にある自然や伝統文化、食などを体験できるツアーを売り込んだ。

笠岡商業高校のプレゼンの様子

ジャルパックで開催された観光説明会では、笠岡商業高校が、笠岡市の北木島を舞台にシーカヤック体験や笠岡ラーメン、倉敷商業高校が美観地区での食べ歩きや倉敷三斎市散策、津山商業高校が津山城鶴山公園の桜観賞や「足踏せんたく」体験などを紹介した。ジャルパックの松浦浩次取締役は「西日本豪雨の際にはたくさんの方が大変な思いをされたが、高校生の皆さんが目を輝かせて旅の企画を作るなど、若い力が新しい力を生んでいる。新しい視点が気付きを生み、プラスの影響を受ける。今後も続けていきたい」と述べた。

JAL岡山支店は「教育、研究、文化の発展や向上」「生徒の人材育成やキャリア育成」の支援、生徒と教職員とJAL職員の相互交流などを行い、同社の業務に活用する取り組みを実施している。

月別取扱額　10月

KNT-CTHD　海外堅調、8%増

KNT-CTホールディングスの2018年10月の総取扱額（グループ14社計）は、前年同月比0・8%減の497億4518万円だった。国内旅行が5・4%減の298億8327万円、海外旅行が8・3%増の170億3078万円。外国人旅行は1・5%増の19億1026万円となった。

国内旅行の内訳は、一般団体が15・1%減（36億8513万円）、学生団体が1・6%減（65億5287万円）。一般団体、学生団体ともに減少し、団体旅行合計で6・9%減（102億3800万円）となった。国内企画旅行は、メイトが12・3%減の46億2877万円、クラブツーリズム国内は2・5%減の106億8935万円となり、合計で5・6%減の153億5553万円。国内個人旅行は減少し、0・7%減の42億8973万円だった。

海外旅行の内訳は、一般団体は14・4%減、学生団体は16・0%増で、合計が2・3%減の45億6471万円となった。海外企画旅行は7・0%増の88億1088万円、海外個人旅行は29・8%増の36億5517万円だった。

区分別に見ると、国内一般団体は周年旅行や大型の企業系コンベンションなどの取り扱いが減少した。学生団体は、林間学校などの取り扱いが増加したが、修学旅行の取り扱いが減少し、前年を下回った。メイトは、首都圏方面は好調に推移したが、沖縄や北海道を中心に多方面が低調だった。クラブツーリズムは、西日本豪雨以来、低迷が続いていた山陰・山陽、四国方面のふっこう割商品が好調に推移した。その他、地震の影響により北海道方面は厳しい結果となった。

海外企画は6・3%増の33億2502万円。自社企画のマッハ・ベストツアーが15・5%増加した。

日旅　国内、海外とも増加

日本旅行の2018年10月の販売実績は、総販売高が前年同月比8・8%増の433億9328万円だった。国内旅行が2・9%増の261億4263万円。海外旅行は19・8%増の128億3775万円、国際旅行は16・6%増の44億1036万円と、ともに前年を大きく上回った。

国内旅行のうち、団体は8・7%増の101億783万円。一般団体（7・4%増、52億6260万円）、教育旅行団体（10・2%増、48億4522万円）ともに増加した。

国内企画は7・0%減の76億8916万円だった。自社企画の赤い風船（5・2%減、73億3166万円）、他社企画（33・9%減、3億5749万円）ともに減少した。

海外個人旅行は29・8%増の36億5517万円だった。

1月からの累計は、総販売高が前年同期比1・4%増の3558億1039万円。このうち国内が2・8%減の2133億8521万円。海外が5・3%増の1045億5521万円。国際が18・5%増の377億7470万円。

企画商品以外の個人旅行は6・2%増加した。

区分別に見ると、国内一般団体は周年旅行や大型の企業系コンベンションなどの取り扱いが減少した。学生団体は、林間学校などの取り扱いが増加したが、修学旅行の取り扱いが減少し、前年を下回った。メイトは、首都圏方面は好調に推移したが、沖縄や北海道を中心に多方面が低調だった。クラブツーリズムは、西日本豪雨以来、低迷が続いていた山陰・山陽、四国方面のふっこう割商品が好調に推移した。その他、地震の影響により北海道方面は厳しい結果となった。

海外企画は6・3%増の33億2502万円。自社企画のマッハ・ベストツアーが15・5%増加した。

東武　総取扱額は3%減

東武トップツアーズが12月17日に発表した10月の販売実績は、総取扱額が前年同月比2・9%減の153億6038万円となった。国内旅行は8・0%減の109億3954万円となった。

国内旅行のうち団体旅行は7・1%減で、種別では一般団体が8・5%減、教育旅行団体も5・6%減と低調だった。個人旅行は企画商品が10・7%減で、企画商品を除く個人旅行も10・9%減とそれぞれ2桁減。

海外旅行は11・1%増の32億4981万円。団体旅行は13・9%増、個人旅行の企画商品は15・6%増、その他の個人旅行は3・1%増となった。

訪日旅行は28・0%増

阪急　国内旅行は5%減

阪急交通社によると、2018年10月の旅行取扱額は前年同月比9・8%増の319億654万円だった。うち、国内旅行は4・6%減の133億5530万円だった。

企画商品以外の個人旅行は6・2%増加した。

1月からの累計は、総販売高が前年同期比1・4%増の3558億1039万円。このうち国内が2・8%減の2133億8521万円。海外が5・3%増の1045億5521万円。国際が18・5%増の377億7470万円。

海外旅行は欧州をはじめ、アジアなどほぼ全方面で前年を上回り、23・1%増の179億5970万円と好調。「特にテレビ通販が成功した香港は伸び率が大きく、153%増だった」。

外国人旅行は欧米・豪州市場が伸び、26・4%増の5億9154万円となった。

国内旅行は微減

阪急阪神BT

阪急阪神ビジネストラベル（BT）の10月の取扱額は前年同月比11・5%増の44億944万円。国内旅行は出張の動きが低調だったが、団体旅行が堅調で、微減の3億2238万円。海外旅行は台風21号の影響で延期になっていた出張需要の戻りなどで13%増の40億8342万円と好調。外国人旅行は74・3%減の363万円。

海外は2桁増

阪神TT

阪神トラベル・インターナショナル（TI）の10月の取扱額は20%増の3億2811万円だった。国内旅行は32・4%減の754万円、海外旅行が22・3%増の3億2057万円。

岐路　バスと観光新たな関係

どう解決　乗務員不足⑱

成定　竜一が説く【121】

もっとも、短期的成果を求める「プル施策」と異なり、民間が「プッシュ施策」に継続的に取り組むのは限界がある。求人サイトなどのサードパーティーの立場であれば、クライアントへの配慮を示す意味も込め、収益を度外視しメディア露出につながる企画を行うような努力は必要だとしても、あくまでも収益事業とのバランスが取れる範囲に限定される。

長期的視点を求められる「プッシュ施策」は、おのずと、事業者団体や行政の力をあてにせざるを得ない。

ところが、東京、名古屋、大阪での求人イベント「どらなびEXPO」の成功を受け、その他の地域で事業者団体や行政が同じようなイベントを実施する例がある。しかし、求人イベント（合同就職説明会）は、短期的に採用につながる確率が高い一方で、運転体験会などと比べ「絵にならない」のでメディア露出にはつながりづらい典型的な「プル施策」だ。

確かに、事業者団体らが実施するこの種のイベントは、ブース出展料なども安く、一見すると地元のバス事業者にとって有意義に思える。しかし、限られた予算の多くは会場費や運営費に消えてしまい、広域から参加者（乗務員志望者）を集めるための広告宣伝費が不十分な場合が多い。また、そのような主催者は費用対効果が優れたウェブ上でのプロモーションを得意としない場合が多く、結果として参加者数が限られてしまう。

民間主催であれば、各バス事業者が負担する出展費用は安くはないものの、主催者はそれらをプロモーション費用の原資とすることができ、各イベントに相応の参加者を集めることができる。成果（採用）を目的とする事業者にとってどちらが合理的かは明確であろう。

事業者団体や行政当局にお願いしたいのは、直近の採用につながる短期的な取り組みではなく、広く社会全体に対し、バス乗務員が職業の選択肢として想起されるような認知と、特に子どもたちに「なりたい職業」の一つだと捉えてもらえるための、「プッシュ型」の情報発信である。

（高速バスマーケティング研究所代表）

「営業所バスまつり」開催

西日本ジェイアールバス　会社発足30周年で

西日本ジェイアールバスは会社発足30周年を記念し、各営業所主催の記念イベント「営業所バスまつり」を開催している。12月11日は大阪駅JR高速バスターミナル（JR大阪駅ノースゲートビル1階）で第4弾を開催。豪華バス「ドリームルリエ」と2階建てバスを展示し、乗り心地を体験してもらった。

ドリームルリエは大阪―東京間を運行する夜行バス。同社の夜行バスの中で最上級のシートを備えており、来場者はシートの座り心地や個室のような快適性を体験した。

キャラクターも登場したイベント

来場者には各営業所オリジナルバスカードをプレゼント。各営業所を巡るスタンプラリー、クイズラリーや、バス発車放送案内体験、同社のオリジナルグッズ販売も行った。同社公式マスコットキャラクターの「にしばくん。」も登場し、来場者を楽しませた。

阪神沖縄キャンプ見学ツアーを発売

阪急交通社

阪急交通社は沖縄県宜野座村で行われるプロ野球球団、阪神タイガースの春季キャンプを見学するツアーを発売した。監督交代もあり、阪神ファンの注目を集めそうだ。

ツアーは2日間、3日間の2コースを設定。旅行代金は大阪発着の場合、1～4人1室で大人1人6万8千円（毎朝食付き）から。宿泊先は選手も利用する読谷村のRoyal Hotel沖縄残波岬。

練習見学のほか、選手と記念写真撮影や握手ができるイベントを用意。また、キャンプ場で利用できる昼食券（千円相当）をプレゼントする。

春季沖縄キャンプを見学するツアーは04年から毎年実施、今回で16回目となる。

RAKO 華乃井ホテル

浜の湯

上諏訪

聴泉閣 かめや

門前ひろば 食祭館

下諏訪

諏訪湖リゾート株式会社

上諏訪温泉　RAKO 華乃井ホテル　浜の湯

下諏訪　聴泉閣 かめや　門前ひろば 食祭館

総合予約センター　☎0266-54-0333

〒392-0022　長野県諏訪市高島2-1200-3

http://www.suwako-resort.co.jp/

露天風呂（男性　）

ビュッフェ「あららぎ」

湯畑前の老舗旅館

泉質主義　草津温泉

一井

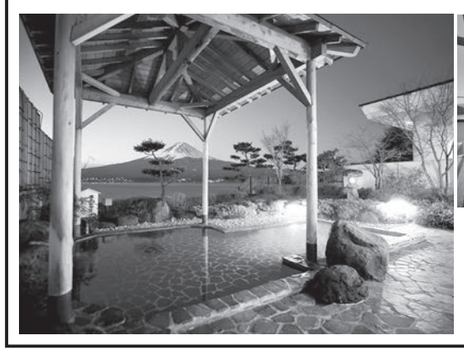
HOTEL ICHII

〒377-1711　群馬県吾妻郡草津町411

TEL.0279-88-0011（代）　FAX.0279-88-0111

http://www.hotel-ichii.co.jp

ここにしかない富士がある。　富士山を望む河口湖畔の宿 秀峰閣湖月



秀峰閣 湖月 SHUHOUKAKU KOGETSU

〒401-0304　山梨県南都留郡富士河口湖町河口2313

TEL. 0555-76-8888　FAX. 0555-76-8940

http://www.kogetu.com/

新・増改築オープンは旅行業者向け告知宣伝のチャンスです

大手旅行業者（JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行、東武トップツアーズ）の全支店、営業所をはじめ中堅旅行業者で有料購読されています。

告知宣伝は広告の他、記事広告（取材）にもお応えします。

お問い合わせは本社へ・・・見本紙を資料として送ります。

株式会社　観光経済新聞社

企画部　☎03（3827）9800（代）